



環境・社会報告書

Japan Beverage Report

2021



ジャパンビバレッジグループ[®]

ホームページ <https://www.jbinc.co.jp>

●発行・お問合わせ先

株式会社ジャパンビバレッジエコロジー

〒331-0811 埼玉県さいたま市北区吉野町二丁目272番地5
TEL:048-651-1166 FAX:048-651-6611



この印刷物は、有害な廃液を排出しない水なし印刷を採用しています。また、大豆油インキを包含した植物油インキと適切に管理された森林の木材を利用したFSC認証用紙を使用しています。

特集1 海洋プラスチック問題の本質をとらえて行動しています

特集2 SDGsとジャパンビバレッジ～2030年目標を設定～

人に、街に、地球上にうるおいを

Contents

- 01 • 編集方針
- 02 • ジャパンビバレッジの事業紹介
- 03 • トップメッセージ
- 05 • 特集1 海洋プラスチック問題の本質をとらえて行動しています
- 09 • 特集2 SDGsとジャパンビバレッジ～2030年目標を設定～
- 11 • 事業活動における新型コロナウイルス感染拡大防止の対応
- 13 • 環境報告 環境マネジメント&パフォーマンス報告
- 15 • 環境報告 コミュニケーション
- 16 • 社会性報告 お客様ニーズへの対応
- 17 • 社会性報告 地域社会・拠点での取組み
- 19 • 社会性報告 レスリング部の活動
- 20 • ガバナンス報告 コーポレート・ガバナンス
- 21 • 第三者意見
- 22 • ジャパンビバレッジの事業概要



編集方針

本レポートは、ジャパンビバレッジの理念と事業の現状、および環境・社会活動を紹介する会社案内と環境・社会報告書の役割を果たします。

参考ガイドライン

環境報告ガイドライン2018年版

報告対象範囲

ジャパンビバレッジグループ
※環境報告および社会性報告のデータの対象が異なる場合は、範囲を別途記載しています。

報告対象期間

2020年1月1日～2020年12月31日
※一部、対象期間外の取組みも紹介しています。

発 行

2021年5月(次回2022年5月予定)

ジャパンビバレッジの事業紹介

ジャパンビバレッジは、総合飲料食品オペレーター業界のリーディングカンパニーとして、お客様のご希望にお応えできるよう、品質や環境、社会活動などを基盤にしたサービスを行い、お客様にうるおいをお届けします。

カップ自動販売機事業

本格レギュラーコーヒーをはじめとしたカップ飲料を展開しています。季節毎に商品を変更し、バリエーション豊かな飲料を皆様に提供します。

また、材料にプラスチックを使用していたカップを取りやめるなど環境に配慮した取組みを行っています。



パッケージ自動販売機事業

春・夏・秋・冬の季節に合わせた各種飲料メーカーの人気商品を取りそろえ、お客様の業態に合わせた商品構成を提案しています。また、食品と飲料の自動販売機をあわせて設置することで、オフィスや職場に休憩スペースを実現することも可能です。



リテール事業

オフィスでの休憩に欠かせないマルチドリンクサーバー(自動粉末給茶機)とコーヒーサーバーなどを展開しています。お茶、コーヒー、紅茶などの定番商品をはじめ、ジャパンビバレッジオリジナルの商品も展開しています。お客様のご要望に応じて、バラエティ豊かな商品のラインナップでご対応いたします。



ジャパンビバレッジオリジナル商品

トップメッセージ

お客様からの信頼を得られる、オンリーワンの企業を目指して

サステナブル活動で事業の継続を図る

ジャパンビバレッジは、事業活動を通じてお客様や社会に貢献し、「社員が喜びと誇りを持てる会社」を目指す姿として掲げ、自動販売機を中心、「おいしさと健康を追求した商品」「安全で安心な商品」「たくさんのお客様に愛される魅力的な商品」を提供できるよう、お客様ニーズを先取りした飲用機会の創造に努めています。

新型コロナウイルス感染拡大により、世界の動きは大きく変わりました。各国がコロナからのリカバリー策を力強く打ち出していますが、それはコロナ前の社会に戻そうというものではなく、持続可能な、より良い社会の再構築を目指したものです。気候システム

を含む地球の生態系を壊さない経済と人間社会を構築していくことが重要であると認識します。

当社は、2018年より持続可能な開発目標(SDGs)の4項目を重要課題として取組んでおります。目標8「働きがいも経済成長も」(柔軟な働き方の推進・従業員の健康維持)、目標12「つくる責任つかう責任」(持続可能な消費と生産)、目標13「気候変動に具体的な対策を」(温室効果ガス削減)、目標14「海の豊かさを守ろう」(ペットボトル水平循環構築)は、当社事業と密接に関連している項目ですので、今年よりこれらについては2030年到達目標を設定し、取組みスピードを速め、当社事業のパス(Purpose)を向上させていきたいと存じます。

ニューノーマル時代における 新たな自動販売機の価値

わたしたちの生活において、水分補給や休息の時間は必要不可欠な要素となります。特に清涼飲料は体内へ効率的に水分を補給することができ、また飲用機会は心をより豊かにするひとときでもあります。そのような場面で自動販売機は、人の接触を介すことなく飲みたい商品を最適な状態で手にすることができます。新しい時代(ニューノーマルの時代)において、お客様の一番身近な場所で、いつでもお客様をお迎えできる体制を整え、お客様からの信頼を得られる、オンリーワンの企業を目指してまいります。



株式会社 ジャパンビバレッジホールディングス
代表取締役社長 伊藤 勲

経営理念

私たちは、魅力ある商品と最高のサービスを通じて人々に潤いを提供し、喜びに満ちた空間と出逢いを創造します。

モットー

①「いちばん」を大切にします。

業界No.1のサービスと業績を目指します。

②「もっと」を大切にします。

明日はどうすれば、
今日よりもっとよくなるかを考え、行動します。

③「ちゃんと」を大切にします。

ちゃんとした管理・サービス・行動により高品質を維持し、
信頼と安全をお届けいたします。

④「やさしさ」を大切にします。

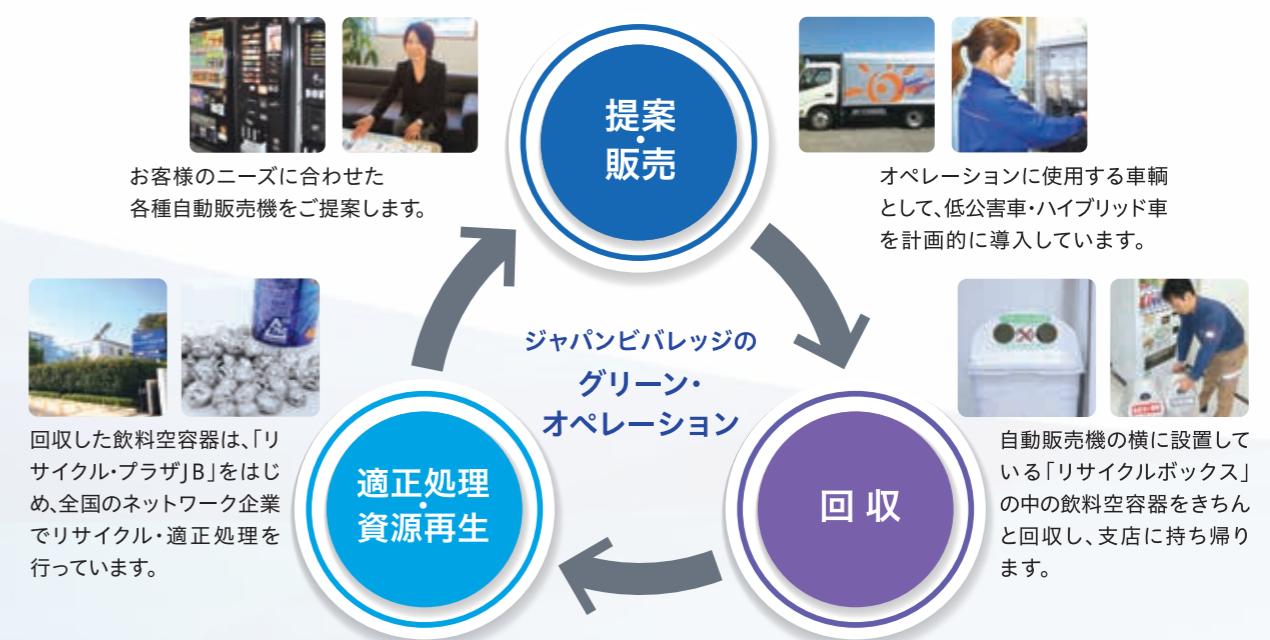
環境にやさしく、
地域社会に歓迎されるよう努力を惜しません。

⑤「あなた」を大切にします。

喜びの創造に向か、
“生き活き”とした魅力ある職場をつくります。

ジャパンビバレッジのグリーン・オペレーション

提案 販売 回収 適正処理 資源再生 をトータルでコーディネートしています。



特集
1

海洋プラスチック問題の本質をとらえて行動しています

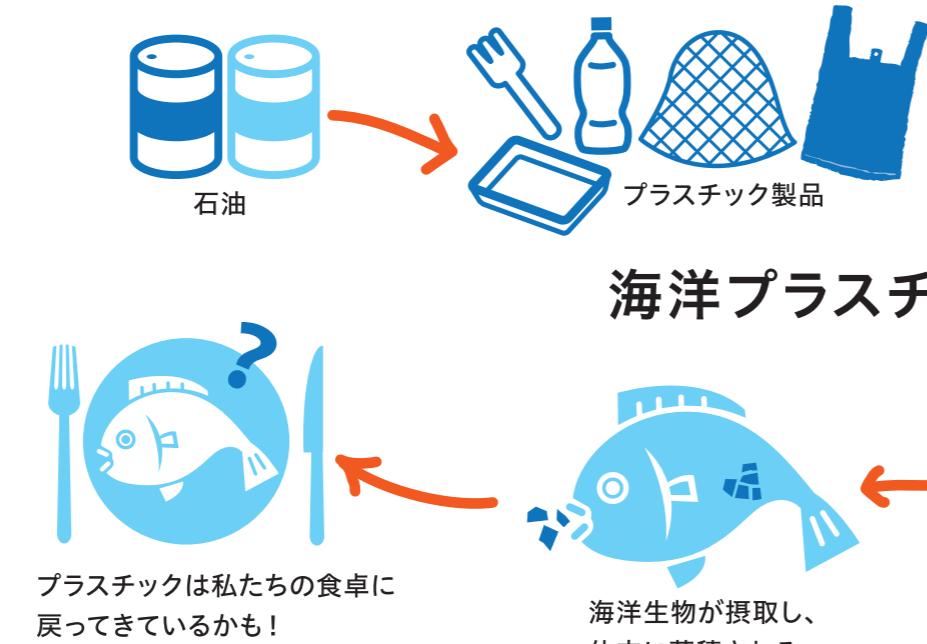
近年、海に大量に流出するプラスチックが世界的な問題となっています。

ジャパンビバレッジは、総合飲料食品オペレーター業界のリーディングカンパニーとして、海洋プラスチック問題の現状を把握し、その課題に取組んでまいります。

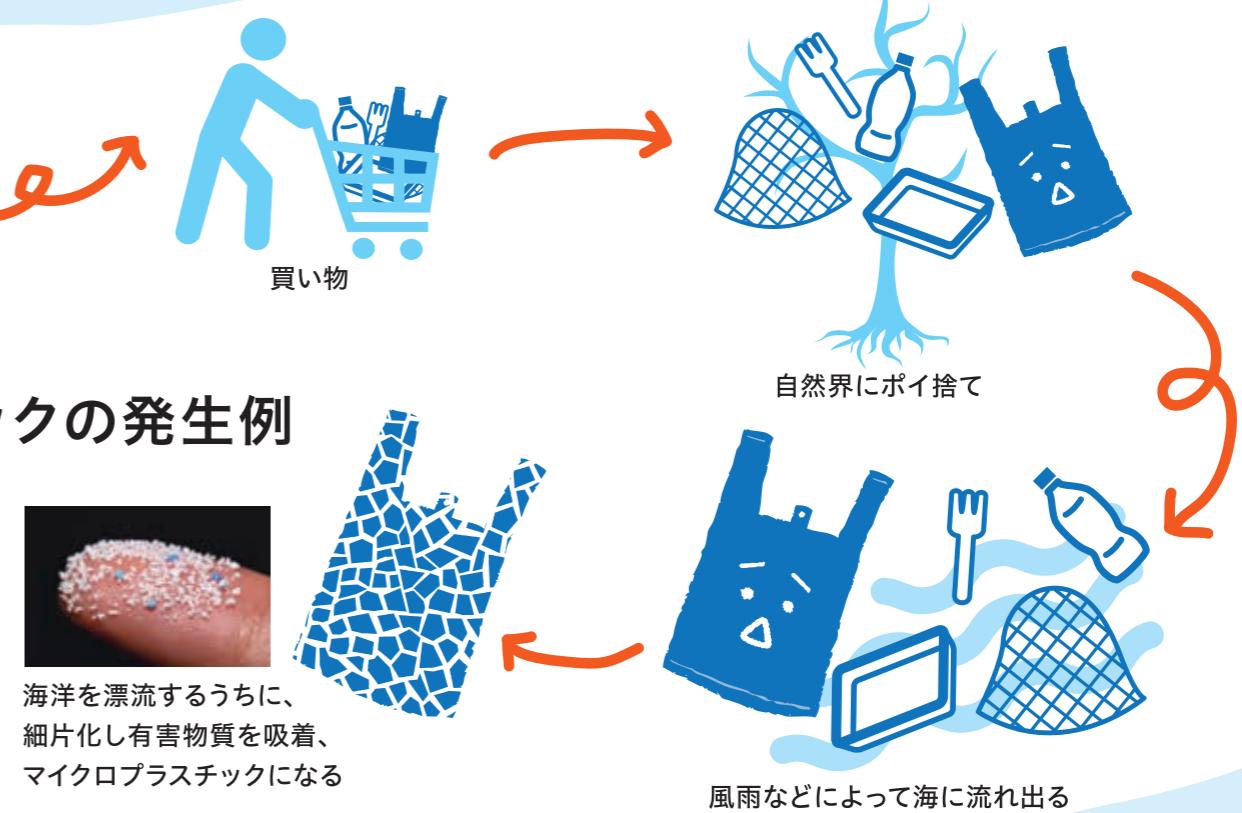
海洋プラスチック問題とは？

洋服や家電製品、包装容器など、私たちの生活に欠かせないプラスチック。このプラスチックが自然界に流出した場合、河川などから海へと流れ込みます。※

※参考：WWFジャパンWEBサイト「海洋プラスチック問題について」
McKinsey & Company and Ocean Conservancy(2015)及び
Neufeld,L.,et.al.(2016)
Gall & Thompson (2015)



海洋プラスチックの発生例



ジャパンビバレッジの認識

海洋プラスチック問題とペットボトル

海洋プラスチック問題では、ペットボトルが海に漂う様子が報道され、これによりペットボトルの利用を控える動きがあります。ただ、問題なのはポイ捨てされた河川や海に流出することであり、ペットボトルそのものに問題があるわけではありません。ペットボトルはきちんと回収されればまた新しいペットボトルに生まれ変わる、資源循環が構築されている貴重な資源です。



ジャパンビバレッジの課題

リサイクルボックスに入れられたごみ

海洋プラスチック問題に関して当社が一番に取組むべき課題は、リサイクルボックスを「ごみ箱」だと思っているお客様が入れるごみ（異物）を無くすことです。その理由は異物がたくさん入れられていたり、ボックスの入口をふさいだりすることによりそのボックス内があふれ、その結果ペットボトルが街や河川そして最終的には海洋に流出してしまうことがあるためです。

これを防ぐためにもリサイクルボックス内の異物削減活動を実施しています。

いますが、これらは自然分解することなく、長期にわたり自然界に残り続けると考えられています。

生物がマイクロプラスチックを取り込むことでどのような影響を受けるのか、まだ明らかにされていません。しかし様々な影響を考慮すると、早急な対策が必要であることは明らかです。



特集
1

海洋プラスチック問題の本質をとらえて行動しています

ジャパンビバレッジのペットボトルリサイクル



飲料空容器再資源化工場「リサイクル・プラザJB」

ジャパンビバレッジは自ら飲料空容器の再資源化を行うため「リサイクル・プラザJB」を設立しました。

ここでのペットボトルの処理は、ペットボトルを選別・圧縮し「ベール品」に加工します。このベール品は協栄産業株式会社様に出荷し、新しいペットボトルに生まれ変わっています。

所在地:埼玉県さいたま市

設立:2003年5月

年間処理量:5,490トン
(2020年度実績)

(ジャパンビバレッジの東京都・埼玉県・千葉県にある22支店が回収した缶・ビン・ペットボトルを処理)



リサイクル・プラザJB

手選別ライン

リサイクル・プラザJBのペットボトル処理フロー



協栄産業株式会社様

使用済みペットボトルから飲料用ペットボトルへ

リサイクル・プラザJBから出荷されたペットボトルは協栄産業株式会社様にて、また新しいペットボトルに生まれ変わります。



再生プリフォーム(ペットボトルの原型)

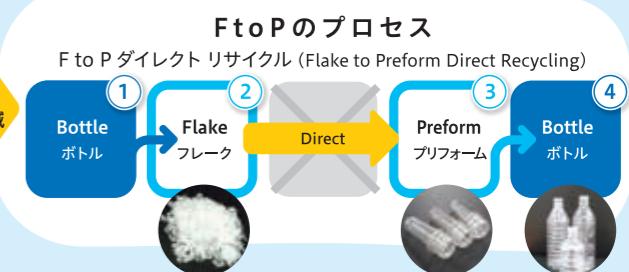
世界初「FtoPダイレクトリサイクル」

協栄産業株式会社様は、回収ペットボトルから飲料ボトルを作る従来のプロセスから、工程の一部を省くことで、環境負荷低減と再生効率化を実現する「FtoP(フレークtoプリフォーム)ダイレクトリサイクル技術」を2018年8月に世界で初めてサントリーホールディングス株式会社と共同開発し事業化を行っています。

これにより、従来のプロセスと比較しCO₂排出量を約25%削減しています。

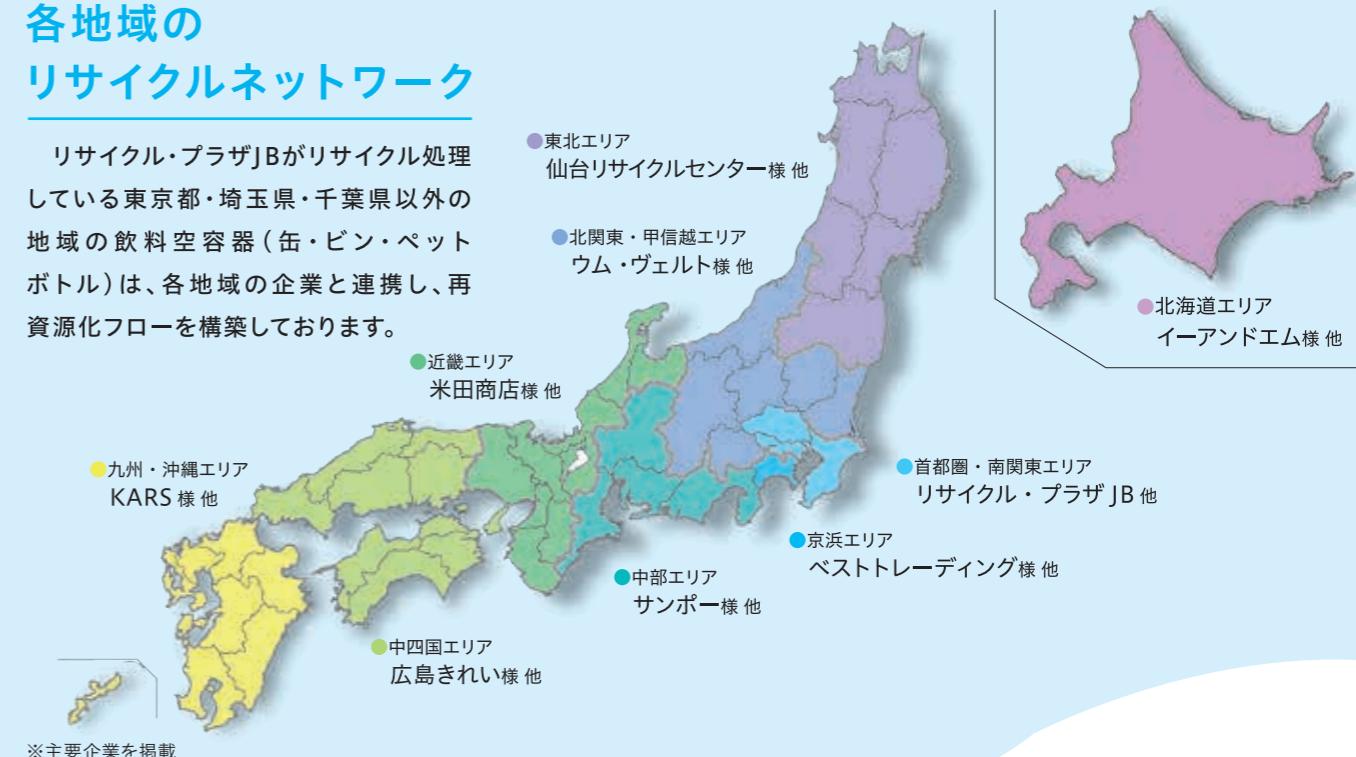


FtoP製造ライン



各地域のリサイクルネットワーク

リサイクル・プラザJBがリサイクル処理している東京都・埼玉県・千葉県以外の地域の飲料空容器(缶・ビン・ペットボトル)は、各地域の企業と連携し、再資源化フローを構築しております。



特集
2

SDGsとジャパンビバレッジ ～2030年目標を設定～

ジャパンビバレッジは2018年にSDGsで取組むべき4つの目標を重点課題として決定し、活動しています。2020年度の活動の進捗を報告するとともに、2030年に向けての活動をご紹介します。



ジャパンビバレッジが重点的に取組むSDGs



目標8 働きがいも経済成長も

取組事項

- 柔軟な働き方の推進による生産性の向上
- 従業員の健康づくりを推進



2020年度活動報告

■テレワーク・オンライン会議システムの導入

2020年3月に本社企画部門・支社・支店管理職・監督職・業務担当にテレワークを一斉導入し、緊急事態宣言時のオフィスへの出勤を5割～7割削減へ取組みました。

また、オンライン会議システムを導入し、各種会議・研修・打合せに活用しました。

■ストレスチェック

コロナ禍で急激に働き方や生活様式が変わりストレスがかかりやすい状態を考慮し、ストレスチェックを通常年1回から年2回実施しました。

■人材育成

各役職に応じた新たな研修体制を構築しています。2020年度に新設した研修は、新任管理者研修、新任マネージャー研修、新卒フォロー研修(振り返り研修)です。また、新卒の従業員を対象に「コーチャー制」を導入しました。

2030年に向けて

コロナ禍収束後もオンライン会議システムを継続活用し、必要に応じてFace to Faceの場を設けるなど臨機応変に対応していきます。

担当者の声 人材育成による「組織風土の醸成」

2020年の人事部は、様々な手法と工夫で活動した1年になりました。まずコロナ禍で、集合して入社式・研修が出来ず、各エリアに少人数で分かれ、オンラインで全国を繋いでの実施となりました。直接会うことができないことを補うため「振り返り研修」を定期的に開催し入社後のフォローアップ体制を強化しました。また、新しい取組みとして何でも相談できる先輩を新人に配置する「コーチャー制」を導入しました。新人に寄り添い細かい気配りをすることで、職場の活性化およびエンゲージメント向上につながり、社内全体で育成の風土が醸成されているのを感じられた1年でした。2021年以降も人材育成体制をより進化させ、更なる組織風土の醸成を目指していきます。



人事部 新妻あづみ



目標12 つくる責任つかう責任

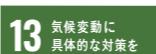
取組事項

- 資源の持続可能な管理
- 廃棄物の削減
- 環境教育提供による情報発信

2020年度活動報告

■飲料空容器再資源化
(詳細はP7・8・14に掲載)

■リサイクル・プラザJBオンライン工場見学の開始
(詳細はP15に掲載)



目標13 気候変動に具体的な対策を

取組事項

- CO₂排出量の削減

2020年度活動報告

■2020年度CO₂排出量

オペレーション活動
(事業所・車両・ガス・灯油) **19,657 t-CO₂**
(2015年比23.3%減)

自動販売機・
マルチドリンクサーバー **156,929 t-CO₂**
(2015年比21.8%減)

2030年に向けて

2030年までのCO₂削減目標を設定しました。

オペレーション活動
(事業所・車両・ガス・灯油) **2015年比 25%削減**

自動販売機・
マルチドリンクサーバー **2015年比 20%削減**



目標14 海の豊かさを守ろう

取組事項

- ペットボトルの資源循環の構築
- リサイクルボックス啓発
- ポイ捨て抑制

2020年度活動報告

■ペットボトル水平循環の社内・社外啓発

お客様へペットボトルの水平循環・資源循環のご説明をしています。

No.1総合食品オペレーターとして
飲料空容器の将来を考える
Japan Beverage
株式会社 ジャパンビバレッジホールディングス

■リサイクルボックスの啓発

各種メディアを通じたリサイクルボックス啓発活動及びリサイクルボックスステッカー運用による分別徹底を推進しています。



新聞への掲載

リサイクルボックス

ステッカー

担当者の声 お客様のSDGs活動を支援しています

お客様先を訪問した際、受付やポスターでSDGsを多く見かけるようになりました。その際はその活動内容をお伺いし、今後のご提案に活かせるように心がけています。例えば、SDGsの目標「海の豊かさ」に関連した海洋プラスチック問題について、ペットボトルとどう向き合うべきか相談を受けたことがあります。その際は、ポイ捨てされなければきちんと資源循環が構築されていることをご説明し、ペットボトルの利用継続にご理解をいただいています。また、教育支援に力をいれているお客様には「トピタ!留学Japan寄付型自動販売機」をご提案しました。

今後も、お客様のニーズとSDGsを融合させた幅広いご提案ができるよう活動をしてまいります。

関東甲信越営業開発部 小川健次



事業活動における 新型コロナウイルス感染拡大防止の対応

コロナ禍においても安全・安心を最優先に、ライフラインである飲料を届ける事業者として活動しております。

自動販売機のオペレーション・営業活動・支店・従業員と各場面で感染予防対策を行っています。

感染予防対策 自動販売機オペレーション

ルートセールスは以下を徹底し、各自動販売機のオペレーションを行っています。



感染予防対策 リサイクル・プラザJB

工場では1日3回工場のライン消毒を行っています。また、マスク・フェイスシールドをスタッフ全員に配布し、その両方を着用するなどして感染予防対策を行っています。



感染予防対策 事務所

テレワーク・オンライン会議システムを導入し、事務所内の密を避けています。



皆様へお願い

リサイクルボックスにマスクを入れないで!!

コロナ禍でマスク着用が習慣となりました。それにより、リサイクルボックスに使用済みマスクが入れられていることがあります、これは絶対にやめてください！

もしマスクが入っていると、飲料空容器を回収する際、ルートセールスに感染するリスクが生じます。また、その後の再生処理を行うリサイクル企業でも感染のリスクが発生し、再資源化の効率も低減します。

マスクは各地域で決められた方法(可燃ごみ等)で廃棄していただくようお願いいたします。



お客様への感染予防のご提案

新型コロナウイルス感染症対策として、接触感染や口腔内感染の予防という観点から、水分補給として利用されていた冷水機や、消毒に手間のかかるやかんでの飲料提供を取りやめる企業が増えています。

そのようなお客様には当社の給茶機をご提案しています。給茶機は抽出まで人の手に触れることがなく衛生的であるのはもちろん、使い切りカップを使用すればより手軽にご利用いただけます。新しい生活様式の一助とし是非ご活用ください。



新しい生活様式 しつかり水分補給で 熱中症対策

新型コロナウイルスの出現に伴い、感染防止を目的とした『新しい生活様式』が示されました。その中の一つ「マスクの着用」によって熱中症のリスクが上がる恐れがあるとされています。

『新しい生活様式』熱中症予防のポイント

- マスクを離すと体の熱を十分に逃すことができず、熱中症になりやすくなります。強い負荷の作業や運動をする際は、屋外などでひとつの十分な距離を確保した上でマスクを屋外にして体温をとることも大切です。
- 新型コロナウイルス感染症を予防するため、換気時でも換気をする必要があります。換気すると設定よりも室温が高くなるため、こまめに温度の調整を。
- マスクをしているとマスク内部の湿度が上がり喉の渇きを感じにくくなります。喉が乾く前にこまめに水分&水分補給。(一日1.2リットルが目安とされています。)

出典：厚生労働省「令和2年度の熱中症予防行動の留意点について」

給茶機のご提案資料

各拠点独自の取組み

全支店では感染リスクの低減のため、スタッフの勤務時間等の体制を変更しています。これにより支店内の在籍人数を調整し、密を避けることができています。また、営業活動では直接訪問ができない場合、オンライン商談も行っています。

そして各支店でも独自の取組みを行っています。その一例として近畿エリアの支店では「ONE DAY ONE HELP」を合言葉に掲げ、事業活動を行っています。「1日1回助け合おう」という本取組みは、このコロナ禍だからこそ、お互いを思いやり助け合うことが大切、という思いから生まれました。このように地域ごとの取組みにより事業活動を継続してまいります。



担当者の声 「ONE DAY ONE HELP」でコロナ禍を乗り切ります

近畿エリアの全支店で取組んでいる「ONE DAY ONE HELP」活動では、具体的に何を行うかはそれぞれの支店に任せられています。長浜支店では、各自動販売機の担当の領域を超えて助け合う手法をとっています。一例としてパッケージ自動販売機担当者の繁忙期には、他の業務の担当者が空容器の回収を代わりに行ったり、売上集計を手伝ったりしています。皆でヘルプしあうことは生産性の向上にもつながり、支店活動もより活性化しています。このようにお互いを助け合いながらコロナ禍を乗り切っていきたいと考えています。

長浜支店支店長 安井篤（現在は奈良支店）



環境報告

環境マネジメント

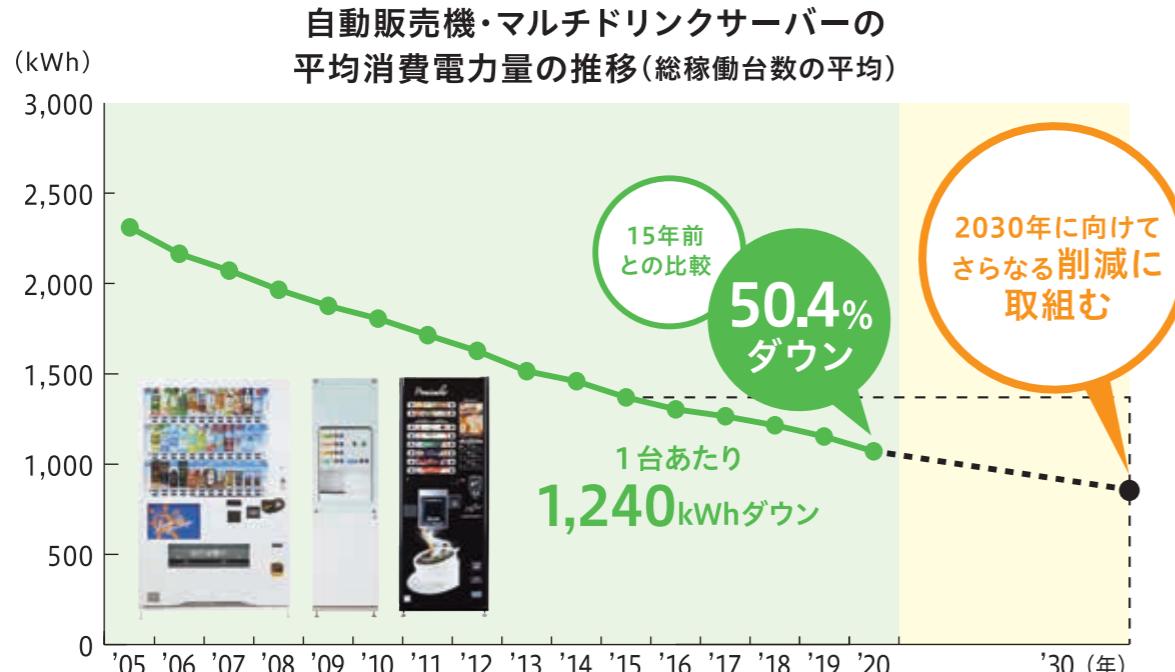
環境報告

パフォーマンス報告

自動販売機の取組み

自動販売機1台あたりの消費電力量の推移

ジャパンビバレッジの事業活動で最も大きな環境影響のある自動販売機。総稼働台数の1台あたりの平均消費電力量は15年前に比べて50%減少しています。今後も、省スペースタイプの小型機、省エネ機等の導入を実施し2030年に向けてさらに削減できるよう取組んでいきます。



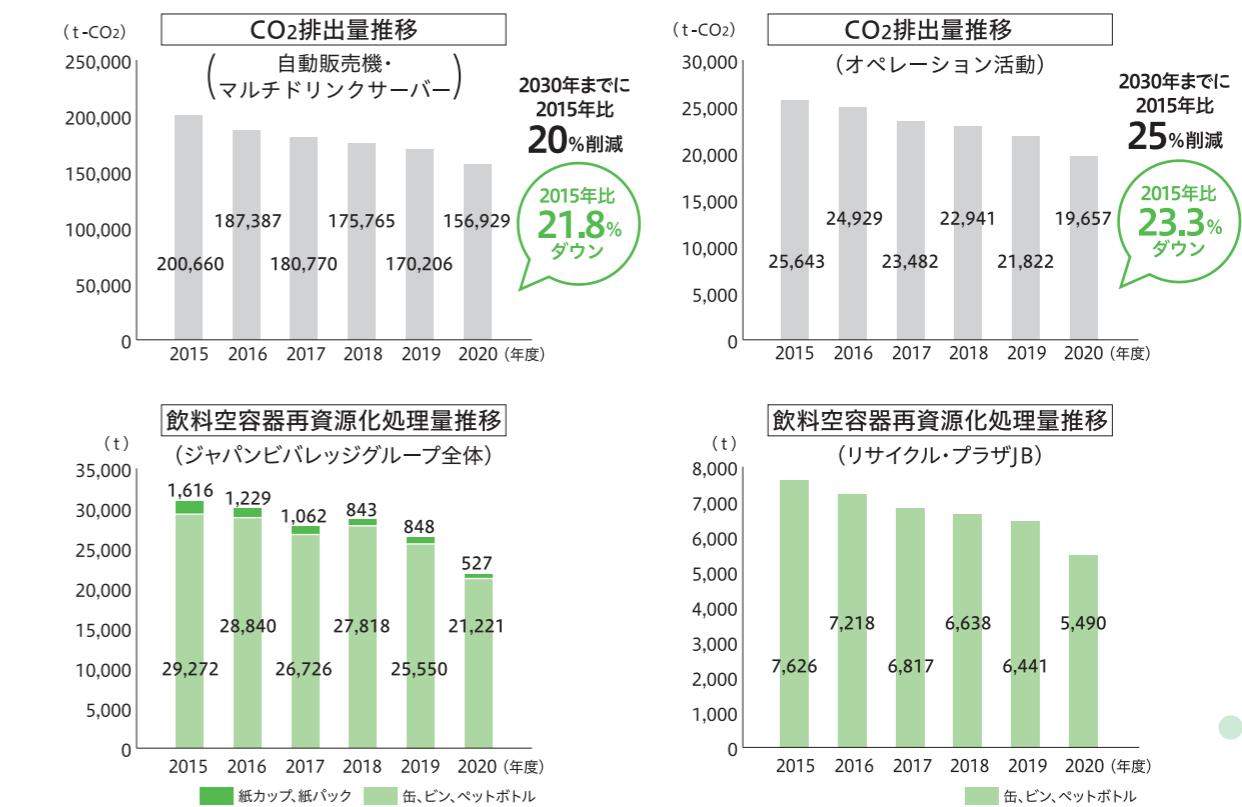
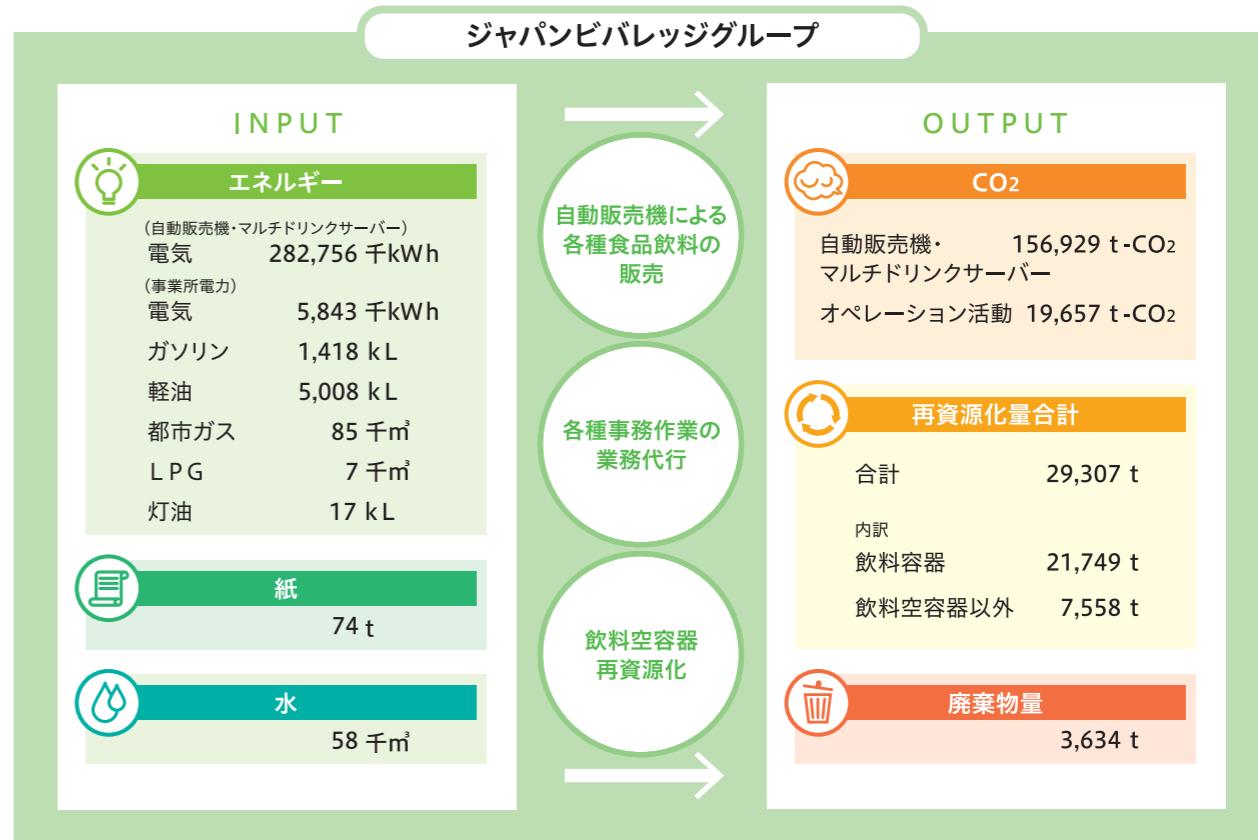
2020年度の環境目標と実績

ジャパンビバレッジは「グリーン・オペレーション」をテーマに環境活動を行っています。

2020年度は4つの環境目標を掲げ、取組みました。

目標内容	目標値	目標達成率	評価
① オペレーション車両 総走行距離(km)の削減	2019年度の総走行距離以下にする	達成 102%	○
② 商品アイテム数 (缶・ペットボトル)の削減	2019年度の商品アイテム数 (缶・ペットボトル)から10%削減する	未達 90%	×
③ 事業所内省エネの取組み	グループ全体の消費電力量を 2019年度比で1%削減	達成 118%	○
④ レスペーパーの実施	2019年度の紙使用量から30%削減する	未達 85%	×

事業活動における資源投入量と排出量



環境報告

コミュニケーション

ジャパンビバレッジは、ステークホルダーの皆様とのダイアログを大切にしています。

リサイクル・プラザJB オンライン工場見学を開始

リサイクル・プラザJBは、オンライン会議システム「Teams」を使用したオンライン工場見学を開始しました。

お手持ちのパソコン、タブレット端末、スマートフォンからご参加いただけます。皆様のご参加お待ちしております。



皆様に缶・ビン・ペットボトルのリサイクルについて生中継



【リサイクル・プラザJB オンライン工場見学内容】	
構成	飲料空容器のリサイクル工程を資料と動画(工場からの中継含む)にて紹介
所要時間	1時間
参加費	無料 (通信費はご負担下さい。)
予約方法	HP予約サイトより 申し込みください ➔

社会性報告

お客様ニーズへの対応

ジャパンビバレッジは、お客様との情報交換を通じて、より良い提案に努めています。

ボスマートの取扱いを開始

自動販売機周辺のフリースペースを活用した、軽食販売サービス「ボスマート」の取扱いを開始しました。自動販売機の決済機能を利用する仕組みのため、現金管理が不要で導入費用もかかりません。

また、5秒で購入できるためとてもスピーディです。コンビニが近くに無い、または従業員の福利厚生をお考えのお客様に最適なサービスとなっています。



ボスマート

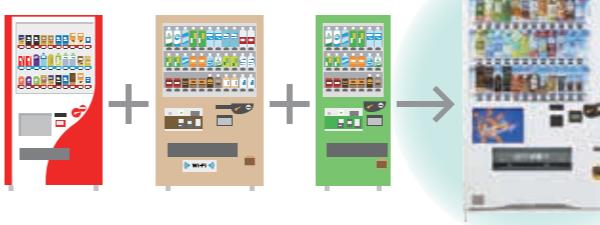
ニーズに対応したご提案

コンビ機と給茶機

事業所の入口や商談スペースにコンビ機と給茶機があれば、来客時と従業員の福利厚生の両方で利用が可能でとても便利です。

コンビ機で省エネ・省スペース

各メーカーの自動販売機を設置されている場合、コンビ機なら1台に集約することができます。



担当者の声

ジャパンビバレッジの強みを生かしたご提案に努めています

お客様とコミュニケーションをとることを第一に営業活動をしています。これまでのルートセールスの経験を活かし、最初の挨拶は元気に笑顔でい、そこから話をしやすい雰囲気がつくれるよう努めています。そして、お客様に要望をお伺いした後は提案プランを考えるのですが、当社では自動販売機や給茶機以外に、新たにボスマートの取扱いを開始したため、より最適なプランをご提案できるようになりました。ボスマートは「雨が降っているときに便利」「ふと食べたくなるものがすぐ買える」と大変好評で、その言葉が私の営業活動の原動力にもなっています。今後もジャパンビバレッジの強みを最大限に生かし、より良い提案をしてまいります。

北海道東北営業開発部 根本優希



社会性報告

地域社会・拠点での取組み

ジャパンビバレッジの各支店ではそれぞれオリジナルの取組みを実施し、支店活動をブラッシュアップしています。また各地域で行っている清掃活動に参加するなど地域ごとにコミュニケーション活動を実施しています。

港支店

「平日」「休日」それぞれのシチュエーションで避難訓練を実施

港支店で実施する通常の避難訓練は平日を想定し、管理職先導のもと行っています。一方、休日は平日と比べ出勤人数が少なく状況も異なるため、その際も確実に避難ができるよう休日を想定した避難訓練も行うこととしました。

2020年6月に行った本訓練では、実際に避難場所である港南中学校まで徒歩で移動し、避難場所までの最適ルート、そのルートで障害はないか、出入口はどこにあるのかなどを確認した後、支店に戻りディスカッションを実施。実際に災害が起きた際にどのように誘導するべきか、外出先のハザードマップ確認の必要性、大震災が起きた場合にどのように行動すべきか、などを話し合いました。

今後も訓練・ディスカッションを重ね、防災意識の向上を図っていきます。



避難場所の確認



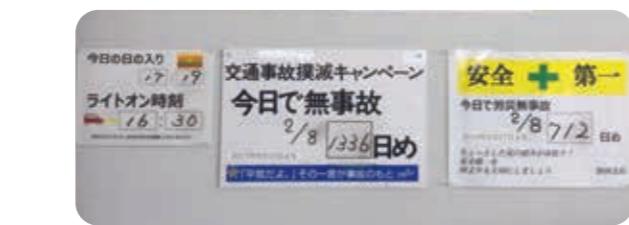
避難場所まで移動

静岡支店

「ONE TEAM 静岡」で無事故を継続

静岡支店では車両事故防止対策として、朝は当日のライトオン時刻の伝達や事故防止について唱和を実施しています。また、運転心理として「あせらない心のゆとり」や「平穀を保つ」ことはとても重要だと考え、事故発生率が高い夕方帰社時の連絡の際に「焦らずゆっくり帰社」の声掛けをおこなっています。これにより「早く帰社しなければいけない」「まだ仕事が残っている」といった心の負担をなくすことができ、事故の発生が激減しました。

また、帰社が遅くなったスタッフの業務をヘルプしあう体制も構築し、支店の一体感も増すことができています。この取組み効果は大きく、連続無事故日数は1,300日を超えていました。これからも「ONE TEAM 静岡」で事故防止そして支店運営を推進してまいります。



朝礼時に伝達



帰社後のヘルプ体制

イベント参加

各地域でのイベント参加

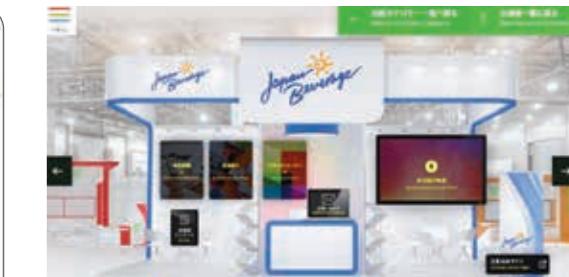
安全に関するイベントや環境活動に参加しています。



豊田支店



府中支店



ジャパンビバレッジエコロジー

川崎国際環境技術展
(オンライン開催)

清掃活動

各地域での清掃活動

支店周辺のゴミ拾いや地域団体主催の清掃イベントに参加することで、事業所近隣の環境美化に取組んでいます。



所沢支店



千葉支店

支店周辺清掃活動
船橋支店

支店周辺清掃活動



北大分支店

ジャパンビバレッジ
エコロジー秋のプラごみ
ゼロウィーク活動

担当者の声

一齊清掃活動に参加しています

北大分支店は事業所近隣の環境美化を目指し、中津商工会議所が実施する一齊清掃活動に参加しています。支店近隣は住宅地となっており、その中で事業活動を行っているため、周辺の美観を保つためにも月2回定期的に行っています。ごみ拾いのほか夏場は特に見える緑地帯の草取りも行っています。事業所近隣がきれいになることで、スタッフも気持ちよく業務出発ができ、仕事のモチベーションアップにもつながっています。今後も商工会議所と連携を図り、活動を継続してまいります。

北大分支店支店長 池邊尚宏(現在は久留米支店)



「ジャパンビバレッジ環境・社会報告書2021」

第三者意見

ジャーナリスト・環境カウンセラー

さきた ゆうこ

崎田 裕子

1974年、立教大学社会学部卒業。出版社で11年間雑誌編集者を務めた後、フリージャーナリストに。生活者・地域の視点で環境問題、特に「持続可能な循環型社会づくり」を中心テーマに取組む。早稲田大学招聘研究員。環境省登録の環境カウンセラーとして、環境学習やまちづくりにも関わる。NPO法人持続可能な社会をつくる元気ネット前理事長、NPO法人新宿環境活動ネット代表理事。環境省「中央環境審議会」、経済産業省「総合資源エネルギー調査会」委員、東京2020大会組織委員会「街づくり・持続可能性委員会」委員など。全国おいしい食べきり運動ネットワーク協議会会長。



飲料を販売する事業者の責任として、自動販売機の横に設置したリサイクルボックスで空容器を回収し、自前で再資源化する会社があることを知ったのは、2003年に取組みがスタートして間もない頃でした。志の高い企業があることに感動した事を覚えています。

今では、全国のグループ企業の缶・瓶・ペットボトルの再資源化量の約4分の1を「リサイクル・プラザJB」で自社処理しているとのこと。素晴らしい取組みです。

今回初めて環境・社会報告書を読ませていただきましたが、トップメッセージで「新型コロナウィルス感染症からのリカバリーは持続可能なより良い社会の再構築を目指す」と、SDGsを踏まえ環境・社会・経済面の一層の強化を明言しておられます。特にSDGsの中で目標8(成長と雇用)、12(持続可能な生産と消費)、13(気候変動)、14(海洋資源)を重視し、海洋プラスチック問題に真正面から取組む姿勢を評価したいと考えます。

私は国の「プラスチック資源循環戦略」策定に参画しましたが、2019年に「3R+再生可能な資源利用」を実現するマイルストーンとして「2030年までにワンウェイプラスチックを累積25%排出抑制」「2025年までにリユース・リサイクル可能なデザインに」「2030年までに容器包装の6割をリユース・リサイクル」「2035年までに使用済みプラスチックを100%リユース・リサイクル等により、有効活用」を明記しました。

環境・社会報告書 第三者意見を受けて

「ジャパンビバレッジ環境・社会報告書2021」に対し貴重なご意見を賜り誠にありがとうございます。また飲料を販売する事業者として取組みを継続してきました自社工場を活用した飲料空容器の資源循環に対してご評価をいただいたこと、重ねて御礼申し上げます。

弊社は多くのエネルギーや資源を利用し事業活動を行っております。事業の根幹である自動販売機は電力を使い、商品は容器包装のペットボトルなどで化石由来原料を使用しております。そのような中、昨年SDGsの取組みに対し2030年目標を設定しました。これは現在の取組みを深化させることを目的としていますが、ご意見のとおり更なるサステナブルな企業活動が求め

られる現在の社会的な要請を考慮すると、事業活動の脱炭素化へ向けた戦略の策定が必要不可欠であるため、今後取組みへの反映に努めてまいります。また海洋プラスチック対策については多くの方のご理解と協力が得られるよう、これまでにも増した情報開示と「伝える」活動を進めてまいります。

私達は、これからもお客様をはじめとするステークホルダーの皆様のお声に耳を傾けながら、生命の輝きに満ちた社会の実現に向けて取組みを進めてまいります。

株式会社ジャパンビバレッジエコロジー
環境部長 加藤豊孝

ジャパンビバレッジの事業概要

- 社名 株式会社ジャパンビバレッジホールディングス
- 本社 東京都新宿区西新宿一丁目24番1号 エステック情報ビル
- 創業 1958年7月
- 資本金 1億円
- 事業内容 グループ全体の経営戦略の策定、自動販売機による各種食品飲料の販売
- データ (2020年度)

売上高 _____ 1,266億円 マルチドリンクサーバー稼働台数 — 5.1万台
自動販売機稼働台数 — 20.2万台 従業員数 — 4,957人



拠点

株式会社 ジャパンビバレッジ 本社

所在地 東京都新宿区西新宿一丁目24番1号
事業内容 自動販売機による各種食品飲料の販売

中四国支社

支社所在地 広島県広島市安佐南区八木一丁目12番1号
エリア 広島・山口・岡山・高知・香川・徳島・愛媛・兵庫(淡路島)

九州沖縄支社

支社所在地 福岡県糟屋郡宇美町大字井野字岩長浦316番590
エリア 福岡・大分・熊本・長崎・佐賀・沖縄

株式会社 ジャパンビバレッジ エコロジー

所在地 埼玉県さいたま市北区吉野町二丁目272番地5
事業内容 飲料容器の再生処理、加工品の販売
グループ全体の環境戦略の策定・推進

関東甲信越支社

支社所在地 埼玉県さいたま市大宮区桜木町一丁目9番地6
エリア 桶木・茨城・群馬・長野・新潟・山梨

首都圏支社

支社所在地 東京都新宿区西新宿一丁目24番1号
エリア 東京・千葉・埼玉・神奈川

東海北陸支社

支社所在地 愛知県名古屋市中村区名駅南一丁目12番9号
エリア 静岡・愛知・岐阜・三重・石川・富山・福井

近畿支社

支社所在地 大阪府大阪市淀川区宮原四丁目3番39号
エリア 大阪・京都・奈良・和歌山・兵庫・滋賀



Japan Beverage Report 2021をお読みいただきありがとうございました。

皆様のご意見、ご感想をお寄せください。

皆様からご意見・ご感想をいただき、活動の内容や本レポートをより良いものにしていきたいと考えています。お手数ですがアンケートへのご協力をお願いします。

アンケートは
こちら

